

1 学校教育目標

すべてのことに全力で取り組む生徒の育成

「一生懸命勉強する」「優しい心を持つ」「感動する」生徒の育成

- めざす学校像 (1) 未来・社会に開かれた学びの場
(2) 感動がある学びの場
(3) 温かい人間関係を築く場
(4) 三者(学校、家庭、地域)協働による子育ての場
- めざす生徒像 (1) 学び(授業、行事、部活動)に感動する生徒
(2) 学びをとおして人に感動を与えることができる生徒
(3) 未来を見据え、意欲的に勉強する生徒
(4) さわやかな挨拶ができる生徒
(5) 学校行事で、しっかり歌って、歩ける生徒
- めざす教師像 (1) 生徒指導が機能する授業、行事、部活動で勝負できる教師
(2) 生徒とともに本気を出し、感動できる教師
(3) 教育のプロとして、指導方法を絶えず改善し、組織力を発揮できる教師
(4) 常識ある社会人、地域の一員である教師

2 前年度の研究

(1) テーマ

「生徒指導が機能する授業実践」

－生徒指導の三機能に視点を置いた「ペア・グループ学習」

における教師独自の手立てを通して－

(2) 成果と課題

【成果】

○教員の授業力向上に向けて

*全教職員が1回公開授業、授業研究会を3回実施

- ・生徒指導の三機能(自己存在感、共感的人間関係、自己決定)に視点を置いた教師独自の手立て(工夫)を明記した指導案を作成した。
- ・本時の目標を明確化し、その目標に沿った評価規準を設定する指導案作りを行った。
- ・意図的、計画的に生徒指導が機能する「ペア・グループ学習」を授業に取り入れ、生徒が学びあい、つながり合う活動ができる授業づくりを行った。
- ・生徒と教師の言動をとらえた事後研究会を行い、鑑識眼(授業を観る目)の向上を図った。
- ・研究授業に向けて、教師を対象としたプレ授業を実施した。
- ・公開授業参観は、教科内は必ず、他教科でも空き時間の教師は参観することとした。

○学力向上に向けて

- ・7時間目15分間の「学習タイム」(5教科)を工夫して実施。
- ・各学年ごとの「学習の手引き」の改訂を行い、より有用なものにした。
- ・土曜学習会の実施…子どもサポーターや保護者ボランティアによる学習会。

○幼小中の連携の推進

- ・6月に授業参観(池尻小・昆陽小・花里小) ・夏休みに合同研修会
- ・地域との連携(夏祭り、餅つき大会など)

【課題】

- ・「学力向上のために授業の工夫をしている」と回答した保護者が79%（昨年度75%）で肯定的評価がやや上がっている。授業改善の取組については伝わっている部分もあると考えられる。しかし、「授業が楽しくわかりやすい」と回答した生徒が73%（昨年度73%）、学年別生徒では1年生が74%、2年生が70%、3年生が76%で、全学年、昨年度と比較して低い授業評価であり、教員のさらなる授業改善が求められる。
- ・公開授業を見学する教師が少ない。事前に時間割を調整するなどして、少しずつ増えてきてはいるが、空き時間なのに見学していない教師もいる。授業者が、公開授業の日時をギリギリに決めると見学者も予定を立てにくいので、せめて一週間前には授業の日程を連絡するようにしたい。
- ・本時の目標達成のための手立て（工夫）が、その教師ならではのものに未だになっていない。他の教師の授業を観たり、研究会に積極的に参加して、自分の授業に新しいものを取り入れる意欲と工夫が必要である。
- ・新指導案の趣旨や作成方法について、わかりにくいと感じている教師もいるため、共通理解を深めるためにガイドを作成したり、研修会を実施する必要がある。
- ・授業の初めに、小テスト形式で前時の振り返りを行うなどして、授業内容の定着をはかる。

3 本年度の研究

(1) テーマ

「生徒指導が機能する授業実践」

－生徒指導の三機能に視点を置いた「ペア・グループ学習」

における教師独自の手立てを通して－

(2) テーマ設定の理由

前年度課題でも記したように、生徒のアンケートでは、昨年度より肯定評価が減少傾向にある。「楽しくわかりやすい授業」をめざして、ICTの活用やペア・グループ学習の実施方法など、改善点は多くあり、さらに研修を重ねる必要がある。また授業に参加していない不登校生、生徒指導上の課題を有する生徒がいる状況は変わらず、本校の課題は、依然、教師の生徒指導力の向上と生徒の学力向上である。授業、研究、生徒指導の三つを一体として実践する必要がある、生徒指導の三つの視点を取り入れた授業ができる力をつけることが、生徒指導力の向上、そして生徒の学力向上にもつながるものと考え、昨年度と同様の研究テーマを設定した。

(3) 具体的な実践内容

「知識・技能」（見える学力）と「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性の涵養」（見えない学力）を授業、行事、部活動で並行して育てる。

授業、行事、部活動をとおして得られる達成感、満足感、自信を前向きな意欲につなげる。

① 新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業

生徒指導の三機能に視点を置き、ペア・グループ学習を取り入れた生徒の主体的な学び、対話的な学び、深い学びをめざす（アクティブ・ラーニング）。

② 本時の目標と本時のまとめの明確化

この授業で何を学ぶか、授業後にどんな力が付いたかを、生徒が実感できる授業を実践し、その力を確実に評価する（パフォーマンス評価）。

③ 授業者ならではの「見せ場」の設定

目標達成のために授業者は何をするのか（見せ場＝授業者ならではの手立て・工夫）を毎時間行う。指導案に「学習の必要感」や「ゆさぶり」を設定する。

④ 全教師が公開授業を実施

すべての教師が本校独自の指導案に基づく授業を公開する。

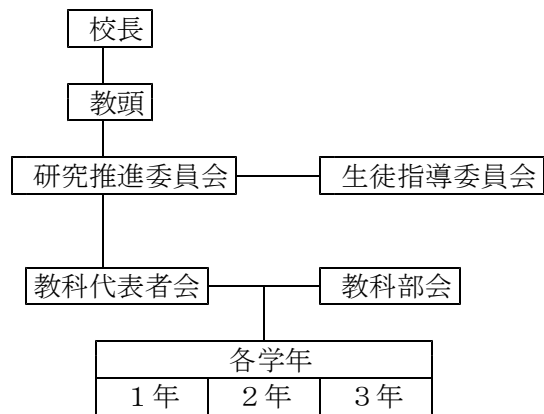
⑤ 授業研究会の実施

学期に1回、研究授業と事後研究会を実施し、授業力向上と鑑識眼（授業を観る眼）の向上をめざす。

※ 生徒指導の三機能

「自己存在感を与える」「共感的人間関係を育成する」「自己決定の場を与える」

(4) 研究推進体制



(5) 研究推進計画

	授業研究会	校内研修会
3月 4月	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマ、年間研究計画提案 公開授業計画(教師1人1授業) (教科部会で順番決定) 	<ul style="list-style-type: none"> 「学習の手引き」改訂 校内研修会 (生徒指導、特別支援教育に関する共通理解)
5月	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業実施開始(～12月) 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校授業参観・小中連絡会 研究授業指導案事前検討会
6月14日 18日	<ul style="list-style-type: none"> QU実施 第1回 研究授業、事後研究会 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修会(事後研究会) 夏季研修会計画
8月1日 8月22日	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修会 校内研修会 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修会 (生徒指導、教育相談、特別支援教育、人権道徳、情報教育) (幼小中合同学習会)(各教科)
10月		<ul style="list-style-type: none"> 研究授業指導案事前検討会
11月1日 19日	<ul style="list-style-type: none"> QU実施 市内研究発表会 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修会(事後研究会)
1月29日 2月 3月	<ul style="list-style-type: none"> 第3回 研究授業 今年度のまとめ・来年度の計画 	

- ・教科部会の定例化(月2回)
- ・ヤングキャリア研修(学期1回)